



東中学校3年
尾関慶祐
Ozeki Keisuke

「今僕たちにできること」

今回の青少年ピースフォーラムを通じて、本当にさまざまなことを学ぶことができました。

一つ目に平和の泉のことです。平和公園の中にある平和の泉には、世界各国からの平和を祈った贈り物が展示されています。それを見て、世界中の人々が心から平和を願っているんだと思いました。

二つ目に被爆の体験を語ってくださった山脇さんの話のことです。山脇さんは「戦争は過去のものではない」と言っていました。確かに、日本で戦争があったのは昔のことだけど、世界的に見るとまだ頻繁に戦争が行われています。そのため、唯一の被爆国である日本から、戦争を無くしていくよう行動していかないといけないと思います。

このようなことから、僕は平和を求めていくためには「伝える」と「話し合う」ことが大切だと思っています。原爆の恐ろしさを伝え、平和の大切さを話し



▲長崎市のピースボランティアによる説明



▲原爆資料館での学習

合うことで世界全体から核兵器を、そして戦争を無くしていけると思います。今回の青少年ピースフォーラムで学んだ大切なことを、これからの生活に生かしていきたいです。



西中学校3年
大脇幸也
Owaki Yukinari

「原爆が教えてくれたこと」

青少年ピースフォーラムを通じて、僕は二つのことを学びました。一つ目は、戦争は過去のものではないということです。被爆者の方からお話を伺い、山ほどの人が道に倒れている中、お父さんを探しに歩いて行ったつらさや悲惨さは、到底忘れることのできない悲しみだと思います。そしてそれらは、受け継がれていかなければいけないことだと思っています。当時の状況を目で見ることはできませんが、原爆の恐ろしさを知り、次につなげることはできるのではないのでしょうか。

二つ目は、伝えるということ。僕は被爆者の方が、なぜ

■長崎の鐘

原爆殉難者の冥福を祈ろうと、昭和52年に設置されました。広島・長崎への原爆投下の日や、終戦記念日に市の同報無線で流している鐘の音は、この「長崎の鐘」の音です。



こうやって多くの人に伝えていくのか分かりませんでした。本来なら二度と恐ろしい戦争のことなど思い出したくはないはずなのに、なぜだろうと考えてみると、被爆者の方は、実際に現場にいて、被害を受けたからこそ、戦争を二度と起こしてはいけないということを伝える使命があるのではと考えたからではないかと思います。今、こうして元気に暮らせている僕たちが、何かを通して伝えていくことがさらなる平和への第一歩だと思っています。

【平和都市宣言】

私たちすべての市民は、全人類共通の願いである核兵器廃絶が一日も早く実現され、戦争のない恒久平和が達成されることを心から希求する。

この願いを込めて、世界のすべての人々との交流をすすめ、相互理解を深め、世界の平和を訴えるものである。(平成元年3月25日制定)